

3 第8次静岡県栽培漁業基本計画にかかる対象種及び目標放流数について

ア 対象種の選定について

(1) 対象種

○基本計画上「放流対象種」と「研究対象種」を決定。

放流対象種	<ul style="list-style-type: none"> ・需要や種苗生産・放流技術の完成度、費用対効果を考慮して選定 ・基本計画において、生産・放流数量を定める
研究対象種	<ul style="list-style-type: none"> ・将来的に放流対象種の候補になり得る魚種で、種苗生産・放流技術の開発が必要なものを選定

(2) 第7次計画対象種の現状と第8次計画（案）の対応

- ・マダイ・ヒラメ・トラフグ・アワビ類は現状においても放流対象種の条件を満たしていることから、第8次計画においても引き続き、放流対象種とする方向で検討する。
- ・クルマエビは、漁獲量の減少が続き、放流効果も低下していることから、漁業者の要望は減少傾向となっている。しかしながら、浜名湖の重要資源であることから、現在の環境変化に対応した放流技術の検討が必要と判断されたため、引き続き、研究対象種とする方向で検討する。
- ・ノコギリガザミ、クエ、キンメダイは漁業者を始め、関係者からの需要は非常に高い。ノコギリガザミは種苗生産技術に、クエとキンメダイは種苗生産と放流技術に課題が残されていると判断されたため、引き続き研究対象種とする方向で検討する。
- ・ガザミについては、放流需要がないことから、計画から除外する。

○第7次計画対象種の現状と第8次計画（案）の対応

魚種	7次計画分類	種苗生産技術開発	放流技術開発	費用対効果	需要	8次計画での扱い
マダイ	放流対象種	○	○	3.7	高い	継続
ヒラメ	〃	○	○	1.0	高い	継続
トラフグ	〃	○	○	1.3	高い	継続
アワビ類	〃	○	○	2.7	高い	継続
クルマエビ	研究対象種	○	△	0.6	減少傾向	継続
ガザミ	〃	○	○	—	ほぼ無	除外
ノコギリガザミ	〃	△	○	0.7	高い	継続
クエ	〃	△	×	—	高い	継続
キンメダイ	〃	△	×	—	高い	継続

○ 技術開発が完了し良好なもの

△ 技術開発が行われているが改良が必要なもの

× 技術開発が初期段階または未実施のもの

○費用対効果の評価結果

魚種	種苗1千尾当り、生産(中間育成)経費 (千円)	放流魚漁獲金額 (産地卸段階) (千円)	仲卸段階売上げ (千円)	小売段階売上げ (千円)	費用対効果			
					産地卸段階	仲卸段階	小売段階	
					B/A	(B+C)/A	(G+J)/A	
	A	B	C: B×0.63	D: B×1.49				
放流対象種	マダイ	23	52.9	33.3	78.8	2.3	3.7	5.7
	ヒラメ	45	26.4	16.6	39.3	0.6	1.0	1.5
	トラフグ	113	92.7	58.4	138.1	0.8	1.3	2.0
	アワビ	121	202.8	127.8	302.2	1.7	2.7	4.2
検討種	クルマエビ	4	1.6	1.0	2.3	0.4	0.6	1.0
	ノコギリガザミ	72	31.4	19.8	46.7	0.4	0.7	1.1

* ガザミ: 2期連続して、放流実績がほとんどなく、また試算のためのデータもないため除外。

計算方法は、栽培漁業の事業効果評価手法(2010: 独立行政法人水産総合研究センター)に従った。

イ 放流対象種の目標放流数について

- ・資源水準または漁獲水準が高位・中位のものについては資源量の維持、低位のものについては資源量の増加を目標とすることを基本に、種苗放流が資源造成に寄与する程度や放流に係る経済的負担も勘案しながら、目標放流尾数を設定した。
- ・広域種であり、国による資源評価結果が公表されているマダイ、ヒラメ、トラフグについては資源水準、未公表であるアワビ(地先種)は漁獲水準を考慮した。

魚種	資源水準*	目標放流尾数設定の考え方
マダイ	高位	放流魚の資源添加尾数* (過去10年平均約16万尾)の維持に必要な放流尾数
ヒラメ	中位	放流魚の資源添加尾数(過去10年平均約2万尾)の維持に必要な放流尾数
トラフグ	低位	漁業者が負担できる種苗購入費用を勘案し、現状の放流数を維持(放流適地での放流増により、現状の資源添加尾数(過去10年平均約0.5万尾)から増加)
アワビ	低位	過去15年間の平均水準までの漁獲量回復に必要な放流尾数

※資源添加尾数: 現状の資源量に新たに上積みされる尾数

※資源水準: 過去20年以上にわたる漁獲量(又は資源量)の推移から、最低漁獲量~最高漁獲量の間を3等分して、「高位・中位・低位」の3段階で区分【次ページ図参照】

7次計画 (H27-R2平均) (万尾)

魚種	放流	
	目標	実績
マダイ	110	94
ヒラメ	40	33
トラフグ	15	9
アワビ	45	27



8次計画(案) (万尾)

魚種	放流目標
マダイ	95
ヒラメ	35
トラフグ	9
アワビ	45

7次計画 (H27-R2平均) (万尾)

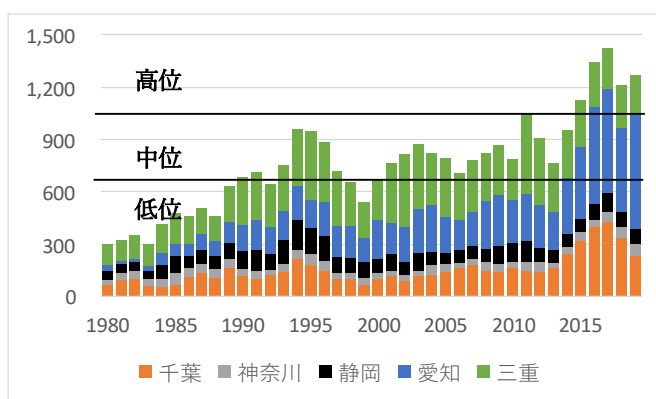
魚種	生産	
	目標	実績
マダイ	167	157
ヒラメ	60	52
トラフグ	15	9
アワビ	45	27



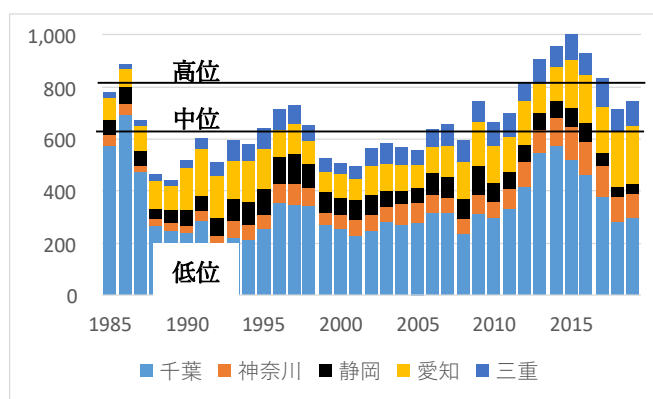
8次計画 (案) (万尾)

魚種	生産目標
マダイ	135
ヒラメ	50
トラフグ	9
アワビ	45

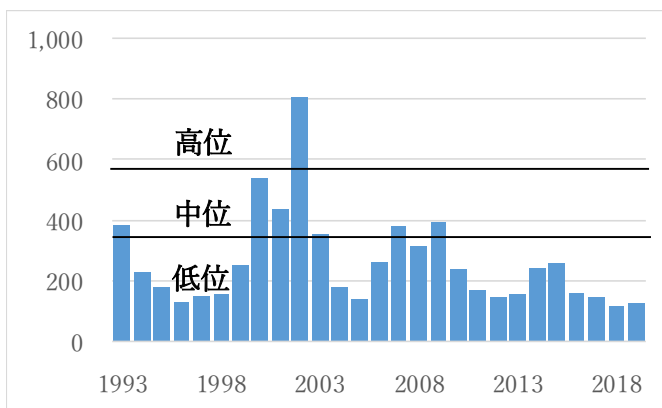
【図 各魚種の資源水準】



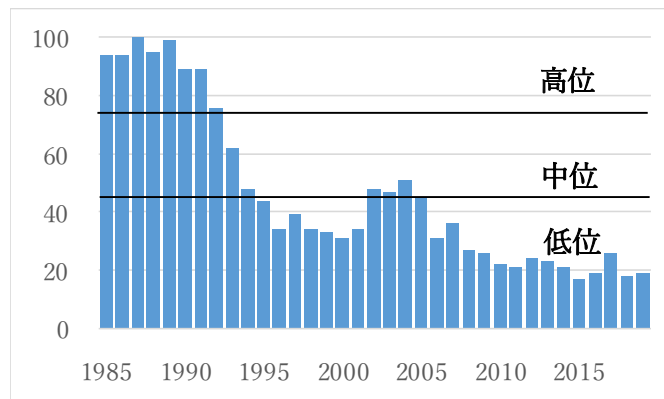
マダイ太平洋中部系群における県別漁獲量(t)の推移
令和2(2020)年度 資源評価調査報告書より



ヒラメ太平洋中部系群における県別漁獲量(t)の推移
令和2(2020)年度 資源評価調査報告書より



トラフグ伊勢・三河湾系群資源量(t)の推移
令和2(2020)年度 資源評価調査報告書より



静岡県におけるアワビ漁獲量(t)の推移